

ぬくもりとおもいやりの医療・介護を

当院は令和3年度に軽度認知障害（MCI）を早期発見する「あたまの健康チェック」、令和4年11月からは、白山市が進める「あたまとからだの健康増進事業」の委託を受け健康増進施設での「あたまとからだの健康運動教室」を開始しました。この認知症予防に向けた取り組みは、高齢者の生活の質を少しでも健やかな状態に保つために、我が国の超高齢化社会において有意義な対策の一つです。この取り組みにおける当院外来での精密2次検査に認知症看護認定看護師も関わっています。



新型コロナウイルス感染症が蔓延し、4年目の春を迎えようとしています。コロナ対応の一つとして、流行の波に合わせ、世情に沿った面会制限は感染対策上、必要不可欠なものとして行われました。倫理的な配慮をしながらの面会制限ではありましたが、入院患者さんやご家族にとって辛い思いをさせることになっていたと振り返ります。入院患者さんにとって外部との接触がたたれ、刺激が無くなり、さらには防護衣やマスク越しの会話やケアは表情が読み取れず、特に高齢の患者さんにとっては認知機能の低下に繋がるのが危惧されました。認知症看護認定看護師は、高齢者対策委員会・認知症ケアチームのメンバーとともに、コロナ禍における高齢の入院患者さんの認知機能低下予防に尽力しています。今年度は「面会制限をしない」という方針の下、現場の職員は悩みながらもどうしたら面会をしていただけるかを工夫し対応してきました。PCR検査陰性確認後の入院であっても、すり抜けて入ってくる感染症に四苦八苦しなながら、拡大防止に専念しています。頑張りが思うような結果にならなかった時期もありましたが、それでも第8波は収束に向いつつあります。パンデミックという先の見えない大きな不安は少しずつ小さくなり、国は感染症5類に引き下げるという緩和策を進めることを決定しました。医療機関での対応は大きく変化しないかもしれませんが、いかなる状況でも地域の皆様のことを第一に考え行動できる病院を目指し、努力を続けてまいりたいと考えます。

「ぬくもりと思いやり」の理念をいつも心に!!

令和4年度 大規模災害対応訓練



令和4年11月26日（土）に大規模災害対応訓練を開催しました。

今回は、「令和4年度中部ブロックDMAT実働訓練」と連携し、実際に複数のDMATチームが当院を拠点に活動しました。大規模地震が発生した、との想定で災害対策本部を立ち上げ、赤エリアでの診療・運営・搬送までをDMATチームと連携して行いました。



在院登録の様子
災害対策本部設置後、
在院登録を行い配属先を
振り分けます。



災害対策本部の様子
今回は、赤エリア以外の黄エリアや
手術室などは机上で行いました。

赤エリアの様子
トリアージタグを中央
処置室で装着後、傷病者を
赤エリア（外科処置室）へ
運び処置を行いました。
DMATチームに応援要請し、
処置・搬送等の支援を受け
ました。

